

おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。今朝も「開倫塾の時間」をお聴きいただき、ありがとうございます。

先週は、栃木県社会教育会議（社会教育委員の会議）が2月12日に行われたというお話をさせていただきました。

実は、私はその前日の11日にはソウルに出掛け、日帰りしてきました。栃木県には経済同友会という経済団体がありますが、東京にもあり、私はそこに参加させていただいております。

その東京の経済同友会の第1回の韓国視察団の一員として、ソウルに行ってきたのです。次の12日には栃木県社会教育委員会が宇都宮市でありましたので、日帰りをして一人で帰ってきました。

韓国のどこを視察してきたかと言いますと、サムソンという会社の研究所であるサムソン研究所です。そこで今日は、サムソン研究所の視察で考えたことを少しお話させていただきます。

サムソンは非常に有名で、韓国で一番優れた会社であると言われております。その研究所の幹部の方と日本の経済界の代表の方との間で、世界経済あるいは韓国、日本の経済の動向を議論していました。

そこで考えたことは、この経済危機は、日本一国だけ、韓国一国だけではとても乗り切れないということです。日本と韓国が手を携えて協力し合わなければならないこと、中国やアメリカ、ASEAN（アセアン）などいろいろな国々と連携しながら解決を図らなければならないことを痛感しました。

韓国はウォンが非常に安くなってしまい、今大変な状況です。韓国の多くの財閥も大変な状況にあります。サムソンだけは大幅な成長を続けています。それには、このサムソン研究所の果たす役割が大きいと私は思います。研究所では、経済の研究は当然のこととして行っていますが、人材の育成プログラムも一所懸命作り、さらにインターネットを通じて研究の成果を各国に配信しています。こ

のような情報発信には非常に優れたものがあると思います。

サムソン研究所ではどのような人材育成をしているか紹介します。人材育成の最終目標は、持続可能なグローバル事業の成果の創出、つまり世界中に展開するサムソンの事業を担う担い手が持続的に成果を出し続けることです。すなわち、黒字を出し続ける人材を育成することです。

サムソンはそれを一所懸命やっています。人事制度の方向として、グローバル人材の適材適所での活用、つまりグローバルに開かれた人事が考えられています。これを実行するために、世界中で働けるような仕組みを作り、世界中に人材を派遣し、また、世界中から人材に来てもらうということ、公平な機会を与えながらどんどん拡大していくという人材運用を行っていると言われていました。

具体的には、1つのところで人材育成をすると同時に、後継ぎをどんどん作っていくことをしています。例えば、新入社員には新入社員独自の勉強を必ずしてもらいます。同時に、ある程度慣れてきた新入社員には、課長になるための勉強をさせます。新しく課長になった方には課長としての勉強をしてもらうと同時に、次長になるための勉強をさせる。新しい次長には次長としての勉強と同時に、部長になるための勉強もしてもらう。新しく部長になった方には、部長としての勉強の他に次の役員になるための勉強をしてもらう。新しい役員の方には役員としての勉強をしてもらいながら、世界中にあるサムソンの事業所のトップつまり経営者になるための勉強をしてもらうということを行っているのです。

つまり、新入社員には新入社員としての勉強と次の段階である課長になるための勉強というように、必ず次の段階の勉強もしてもらう社員教育が行われています。これを企業内だけではなく、MBA（大学の経営学修士課程）や大学と連携しながら、また、役員養成コース・各事業所の経営者養成コースなどいろいろなコースを作りながらやっているようです。

このように、世界各地の現地法人の経営者を教育してそこで成果を出す。これが、サムソンのグローバルリーダーの養成のしくみではないかと私は思いました。

これは、私たちのような中小企業でも大いに参考になりますね。日本では、中堅企業でも大企業でもこのような形で行っているところはなかなか少ないようです。

サムソンの本社では、サムソン研究所を通じて、各国に展開する事業所から優秀な人材を集めて教育をしています。ですから、サムソンの本社にも、韓国の方々だけではなく、世界中から人材が集まって活躍するというしくみが作られています。世界の中にはこのような会社もあるのです。

2月11日に、ソウルのサムソンという会社の本社にあるサムソン研究所を訪れ、人材の育成について勉強させていただきましたので、今日はそのお話をさせていただきました。

日本にもこのような会社が少しでも多くなれば、今の不況に負けないような会社づくりができるのではないかと考えます。皆様はどのようにお考えでしょうか。